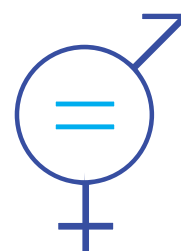


分野横断的な優先事項： ジェンダーの平等



パスカリンさんにとって、
サッカーは
単なるスポーツでは
ありません。
より良い未来への
道なのです。

ニジェールの首都ニアメのラクルス地区で、風が吹くたびにトタン屋根がガタガタと音をたてる平屋に暮らしているパスカリンさん。11歳のとき彼女は、家族に学費を払う余裕がなかったため学校を中退しました。そんな彼女にとってサッカーは心の支えで、同じ地区に暮らす少年たちと一緒にプレーして技術を磨きました。

少年たちは、彼女のことを笑いました。しかし、パスカリンさんは気にも留めませんでした。

「サッカーは男の子だけのものだと言う人がいる。でも私は、友達とそれが間違っていることを証明しているわ」13歳になったパスカリンさんは言います。

パスカリンさんのサッカーの腕前は、子どもたちを教育に戻す支援とサッカーとを融合させた学校、アチャ・アカデミーのスカウトの目に留まりました。彼女は入学試験に向けて懸命に勉強し、アカデミーに入学することができました。

2019年のジェンダーの平等の主要なパートナーは、欧州委員会、国連開発計画（UNDP）、韓国、カナダ、国連人口基金（UNFPA）です。



サッカーと猛勉強のおかげで、もう一度教育を受ける機会を得た13歳のパスカリンさん。ニジェールのアチャ・アカデミーに在籍。このアカデミーは、女の子が学業に励み、人生で成功する力をつける支援の一環としてサッカーを取り入れています。

© UNICEF/UNI211140/Haro

ユニセフの「ジェンダー行動計画 2018-2021 年」は、子どもたちの生活に影響を及ぼすすべての分野、すなわち保健、栄養、教育、保護、環境、そして貧困におけるジェンダーへの対応に焦点を当てています。

ニジェールは、推定 250 万人の子どもたちが学校に行くことができず、児童婚率が世界で最も高い国です。この国を見れば、将来に備える際に女の子が直面する課題が見えてきます。ニジェールの問題は、世界中の国々の課題を映し出したものでもあるのです。

世界的に児童婚は減少しているにもかかわらず、何百万人も女の子が依然としてリスクにさらされています。

さらに、15 歳から 19 歳の約 4 人に 1 人の女の子が、教育や職業訓練を受けておらず、職も持っていません。この割合が、同年代の男の子では 10 人に 1 人まで減少します。女の子 5 人のうち 4 人が小学校を修了しますが、高等学校を修了できるのは 5 人のうちわずか 2 人です。

ユニセフの「ジェンダー行動計画 2018-2021 年」が目標としているのは、10 代の女の子を対象とする以下の 5 つの優先課題です。①ジェンダーに配慮した青少年の健康、②女の子の中等教育、③児童婚、④緊急時におけるジェンダーに基づく暴力、⑤月経時の保健と衛生です。

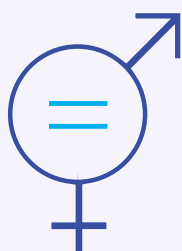
アチャ・アカデミーで開催されているようなサッカー大会は、自らの力で未来を築こうとする女の子たちが直面する課題に対し、ユニセフがどのように解決に向けた支援をしているかを示す一例といえます。サッカーのプログラムに加え、子どもたちに、初等・中等教育、学習用・スポーツ用の備品や食料を提供しています。

「アカデミーから自転車や学用品、練習用のサッカーウェアをもらいました。人生が変わって驚いています」と、パスカリンさんは言います。

彼女の教師であるガルバさんは、この学校は生徒をつなぎ留め、生徒のモチベーションを維持することに成功していると言います。サッカーが子どもたちの興味を引いているだけかもしれないとももちろん分かっています。しかし、その効果は確実にあるのです。

「生徒たちは、どの授業にも宿題を済ませてから出席します」とガルバさんは言います。

主要な成果



10代の女の子570万人に
児童婚を防ぐための
ケアと支援を
実施しました。

有害なジェンダー規範を是正するプログラムを
120カ国で実施。学校カリキュラムの策定支援、
子育ての方法の啓発活動、
教育や福祉の最前線で働く人々への研修、
児童婚の抑止を中心的に扱っています。

ユニセフは、女性と女の子に対する暴力を根絶するための世界最大の取り組みである、国連と欧州連合 (EU) による共同の取り組み「スポットライト・イニシアティブ」に着手。アフリカとラテンアメリカの13カ国で暴力根絶に向けて取り組み、2019年から2020年にかけて3,600万米ドルを割り当てました。



左：女性性器切除（FGM）が最も蔓延しているエジプトのコミュニティで、FGM 廃絶に向けた啓発活動の研修を受けている女の子と女性たち。米国国際開発庁（USAID）の「女性と女の子のエンパワメント」プログラムおよび国連人口基金（UNFPA）とユニセフの合同グローバル FGM プログラムの枠組みの中で、ユニセフのパートナーである NGO 団体の ACDA（Asyut Child and Development Association）が現在実施している「子どもたちのためのより安全なコミュニティ」プロジェクトの一環です。

© UNICEF/UNI287340/Mostafa



左：南スーダンのボルで隣人と話す 17 歳のアヤックさん。1 歳の赤ちゃんの母親であるアヤックさんは、15 歳のときに年上の男性との結婚を強要されました。出産時に重度の合併症を起こした彼女は、出産後、実家に戻り、夫との離婚を願い出しました。アヤックさんは学校に復学し、将来への期待を高めたいと考えています。ユニセフの推計では、南スーダンで 18 歳になるまでに結婚している女の子は全体の 50% に上ります。

© UNICEF/UNI220179/Gonzalez Farran